

平成21年度第2回高知県社会貢献活動支援推進会議

- 1 日 時 平成21年11月10日（火）10：00～12：00
- 2 場 所 高知県庁北庁舎3階会議室
- 3 出席者 委員13名中10名出席、事務局7名出席、協働サポーター（オブザーバー）3名出席
- 4 議 題
 - （1）第2次高知県社会貢献活動支援推進計画に基づく支援策の進捗状況について
 - （2）寄付金制度について
 - （3）社会貢献活動の質的評価についての指標研究・検討について
 - （4）その他（平成20年度庁内各課の支援策実績について外）

5 内 容

○議題（1）～（4）について、事務局より説明。

○意見交換（議長：会長）

議題（2）寄付金制度について

（事務局）この寄付金制度は山形県を参考にしている。山形は団体支援寄付とテーマ希望寄付に分かれており、開始1年で約1億円の寄付が集まっている。

- ・ ボランティア・NPOセンターにも寄付制度がある。いくつも寄付制度があると限られたパイを奪い合うことになり、寄付が分散して集まらないのでは。
- ・ 一般市民は寄付の呼びかけを聞いたことがない。新聞等で寄付による助成結果は見るが、寄付金を集めていることのPRが不足している。
- ・ 寄付金を集めるために営業をする人が必要。

（事務局）こうちNPO地域社会づくりファンドでは県職員が企業を訪問して寄付をお願いする予定。

- ・ NPOを育てるための寄付は効果がわかりにくい。寄付者は、すぐに効果が出そうなわかりやすい寄付制度へ寄付する。
- ・ ボランティア・NPOセンターの寄付制度と手を組んではどうか。全く目的・趣旨が違うのなら仕方ないが、同じ目的ならいいのでは。
- ・ 企業もあちこちから寄付を頼まれるので一本化するとわかりやすいかもしれない。
- ・ NPO側からすれば寄付制度は多いほうがいい。
- ・ 企業からの寄付は、手順が重要。企業が寄付の決定をどのタイミングでするのかわかりにくい。
- ・ 企業とのマッチングを受け入れないNPOには助成しない、というのは難しいのでは。
- ・ 山形県のように企業の想いを事業に託す、という形ならやりやすいかもしれないがこれは逆なので難しい。
- ・ 企業からの寄付をもらうなら、「企業の寄付で成り立っているファンド」ということを宣伝するようにしてはどうか。
- ・ 指定寄付は、企業しかできないのか。

（事務局）企業だけでなく、個人からの寄付も同じように受け付ける。

- ・ 個人からの寄付の集め方、宣伝方法を考える必要がある。HPでの宣伝だけではダメ。バザー等イベントをして募金箱を置いたりして集めると効果あり。

- ・ 今の案だと事務局が大変。指定寄付は審査会で助成決定した団体のみにしてはどうか。
- ・ 企業とのマッチングはNPO側の理解が得られにくいのでは。NPOはピンとこないと思う。

議題（3）社会貢献活動の質的評価についての指標研究・検討について

- ・ 社会貢献活動をするうえで評価は避けられなくなっている。今までは量（法人数や活動人数等）での評価が中心だった。量で表現できる質もあるが…。
- ・ 例えば、環境系と福祉系のNPOは違うが、評価するための共通項はある。
- ・ 評価について、どういう目的で、誰が、どういう使い方をするのか、ということも検討する。
- ・ NPO自ら評価する機能をもたないといけないが、自己評価だけではいけない。
- ・ 大勢の人が参加しているNPOが優れている、というわけではなく、参加できる人数が限られているのは専門性が高いから、ということもある。評価するのは難しい。
- ・ 個々の団体の評価は、掲げているミッションに対してしなければならない。ひとつのものさしではかるのはそぐわない。自ら掲げているミッションをどれだけ果たせているか、ミッションに合致しているかを評価してあげないといけない。
- ・ 企業の評価は難しいのでは。
- ・ すぐにできることではないので、小委員会を設けたい。研究会なので委員にも参加してもらって公開する予定。

（事務局）小委員会のメンバー案は、上田委員と新藤委員、上田委員からの紹介で高知大学の大概知史先生、以上3名。

※ 小委員会の設置について、各委員承認。

議題（4）その他（平成20年度庁内各課の支援策実績について外）

委員より質問：資料4について、平成21年度の予算が大幅に増えているのはなぜか。

（事務局）「中山間地域生活支援総合補助金」の2億1千万円、「観光施設等緊急魅力増進事業費補助金」の8千万が大きい。その他にも新規事業があるため、21年度は大幅に増えている。

この予算が全てNPOに対するものというわけではなく、「NPOも支援の対象に含む事業」も多く含まれている。